

## 大阪府指定出資法人評価等審議会（第7回）

- と き 令和3年7月28日（水曜日）9：30～11：00
- と ころ Web 開催
- 出席者 吉村 典久（大阪市立大学大学院経営研究科・商学部 教授）  
上野山 達哉（大阪府立大学大学院経済学研究科・現代システム科学域マネジメント学類 教授）  
久保 明代（株式会社プロスパー・コーポレーション 代表取締役会長）  
坂本 守孝（坂本会計事務所 公認会計士）  
山田 美智子（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員）
- 議 事 令和2年度の経営評価結果について
  - （1）（公財）大阪府漁業振興基金
  - （2）（株）大阪鶴見フラワーセンター
  - （3）（公財）大阪府保健医療財団

### 令和2年度の経営評価結果について

#### （1）（公財）大阪府漁業振興基金

##### 事務局から、令和2年度の経営評価結果及び指導・助言について説明

- 委員：「管理費」が未達成だったことについて、仮に、栽培事業場長の人件費を管理費に入れなかった場合は、目標達成となっていたのか。
- 部局：人件費を管理費に入れなかった場合も、若干目標数値を上回り、未達成になっていたと思われる。
- 委員：人件費の管理費への振替以外に、何か大きな要因はなかったのか。
- 部局：他の大きな要因はないが、中期経営計画の策定時に検討していたOB職員の登用がなくなり、当初の計画より人件費の抑制ができなかったという状況。令和3年度の管理費については、令和2年度実績をベースとし、さらに削減を図っていく。
- 委員：現在、3種類の稚魚の放流を行っているが、さらに魚種を増やす予定はあるのか。今後の取組みについて教えてほしい。
- 部局：放流事業については、「大阪府栽培漁業基本計画」に基づいて実施しており、現計画（第7次）が今年度に終了することから、現在、「第8次大阪府栽培漁業基本計画」の検討を水産技術センター（環境農林水産総合研究所）・法人・府水産課の3者で行っている。法人の財政状況も勘案しながら計画を策定することとなるが、今後、魚種が増える可能性もある。

#### （2）（株）大阪鶴見フラワーセンター

##### 事務局から、令和2年度の経営評価結果及び指導・助言について説明

- 委員：未達成の要因について、詳しく教えてほしい。「当期経常利益」の未達成の要因の中で、1月の寒波の影響で産地からの供給量が落ち込んだとあるが、どれくらいの影響があったのか。また、寒波の影響とコロナの影響を比べると、どちらが大きかったのか。
- 「経営状況を勘案した施設改修」の目標通りにできなかった部分については、必須ではなか

った改修なのか。必要であれば、経営状況が悪い中でも改修を行っていくことになると思うが、こういった判断により、実施しない部分を決めたのか教えてほしい。

部 局：1月の寒波の影響については、キクだけでなく、花き全体で見ると、前年の7割まで産地の供給が落ち込んでいる。

施設改修については、改修が必要な部分に対して少しずつ実施していくという計画を立てているが、今のところ差し迫っていない部分については、今回先送りとした。また状況を見ながら計画を見直し、実施していきたいと考えている。

委 員：前年の7割となった供給量の落ち込みについては、コロナの影響よりも、寒波の影響の方が大きかったと考えてよいか。

部 局：コロナと寒波の両方の影響があったが、この期間、特に市場での取扱高が大きいキクに関しては、落ち込みも大きいことから記載している。緊急事態宣言も出ており、コロナの影響もあったが、どちらの影響がより大きいかは確認できていない。

委 員：その分析はされないのか。

部 局：緊急事態宣言と寒波、それぞれ単独でどれくらいの影響が出たのか、二つが重なった場合にどれくらいの影響が出たのか、という分析ができていないので、どちらが大きいかは現時点で回答することは難しい。

委 員：未達成の要因・分析として数字を記載されているが、分析ができていないのであれば、これは状況の記載であって、分析ではないのではないのか。

部 局：ご指摘のとおりだが、非常に分析がしづらく、コロナと寒波のどちらの影響なのか、経年の需要低下から来るものなのか、という点は判断が難しい。

委 員：今回は実績に対しての評価だが、今後目標を設定する際に、要因の分析ができていないと、その目標が妥当かわからない。トレンドとして需要がなくなっているのであれば、目標設定でその点を考慮しなければならぬし、コロナの影響であれば、その影響がなくなるとともに回復できると思うが、要因がわからない今の状態では、評価が難しいと感じる。

部 局：緊急事態宣言がない場合の仮の売上高を算出してはいるが、寒波によってどれくらい供給量が落ち込んだのかはわからないため、比較が難しい。

委 員：それぞれの影響がどのくらいあったのかを分析すべきではないか。それがわからない場合は評価できないと思う。

委 員：産地とあまりコミュニケーションがなく、減少の要因がわからないということだったが、コミュニケーションしてもわからないのか。

部 局：市場開設者である法人が、産地と直接コミュニケーションをするわけではなく、法人から卸売業者に確認することになるが、今回その点までは確認できていない。

委 員：卸売業者に、産地に対して細かくコミュニケーションしてもらったら、わかる可能性もあるのか。

部 局：卸売業者でその情報を持っているかもしれないが、今回そこまで踏み込めておらず、大きな要因の一つとして、寒波の影響を挙げている。

委 員：コロナと寒波の影響という説明では、次の対策を立てることが難しい。また、令和2年度の達成状況についてもコロナの影響であるかがわからず、コメントしづらいと感じる。

委 員：諸要因で2年連続の赤字となり、厳しい状況となっているが、「令和3年度大阪府行政経営

の取組み」における法人の方向性として、府保有の株式の売却とあり、タイミングを見定めるとい記載がある。このまま赤字が続いていくと、企業価値の向上などの議論が難しいかと思うが、コロナの中でも、現実的な可能性としてどのように考えているか。

部 局：民営化については、全庁的な方針でもあり、具体的な取組みを進めていきたいと考えているが、コロナの影響によって卸売業者に対する使用料の減額を行ったことや、緊急事態宣言の影響がなければ、赤字を解消できたのではないかと考えている。コロナの影響がなくなった状況を見据えて、まずは令和3年度の黒字化に向けて取り組んでいきたい。

委 員：未達成の要因については、もう少し精緻に分析してほしい、との意見があったことから、事務局と所管部局で資料を調整のうえ、次回以降の審議会で報告いただきたい。

### (3) (公財) 大阪府保健医療財団

#### 事務局から、令和2年度の経営評価結果及び指導・助言について説明

委 員：令和2年度は全ての経営目標を達成しているが、今後のモチベーションや、取り組んでいかなければならないと意識している点について、教えてほしい。

部 局：経営目標は達成できているが、令和3年度が現在の中期経営計画の最終年度にあたることから、検診における収支均衡を図るとい最終目標を目指して取り組んでいるところ。昨年から収支のバランスは一定保たれているが、最終の目標達成という観点では、引き続き経営努力をしていく必要があると考えている。

委 員：同じ業界内で他の検診機関と比べた場合、公的機関か民間機関かの違いはあるかもしれないが、法人はどういった経営状態にあるのか。

部 局：現在、自治体等の大規模検診の入札へ多数の民間の検診機関が参加し、法人にとっては原価を割るほどの低価格で受注でしていることから、法人は大規模検診を受注できていない。また、業界全体としてはコロナの影響で入札対象が減少しており、厳しい状況。民間の検診機関の場合は、コストを踏まえて安い単価で多くの検診を受注し、経営できているが、法人にとっては、民間の検診機関と同様に、大規模検診を低価格で多く受注し経営していく方向性は難しいのではないかと考えている。

委 員：民間機関が非常に安い価格で受注したものの、経営が立ち行かず、質が下がってしまうこともあると聞いている。法人に対しての要望ではなく全体的な意見となるが、府民の健康促進に寄与するため、あまりに低い価格設定をしている機関については、府から何か働きかけがあってもよいかと思う。